

内視鏡外科学会との関わりは、遡ること 1991 年と記憶している。以来、25 年間に亘りこの学会の急成長を目の当たりにしてきた。研究会は 1995 年に学会へと姿を変え、翌年に発刊された本誌 JSES は学会の発展とともに出版部数を拡大してきた。当時、既に会員数は 2,000 人を超え、われわれは新しい外科の到来を予感していた。本誌創刊の辞には「活き活きとした情報を満載した、魅力あるジャーナル」を目指すと故出月会長が記している。創刊号の特集は「大腸癌に対する腹腔鏡下手術の controversy」とあり、その 5 年後には腹腔鏡下大腸癌手術は「標準治療」として最も早く認知されるに至った。このように、大腸癌手術をいち早く特集した当時の編集委員諸氏の先見性には敬意を表さざるを得ない。もっとも創刊号に掲載された第 3 回のアンケート集計結果によると、大腸癌は 478 例と悪性腫瘍で群を抜いて症例数が多かった。因みに胃部分切除 240 例に対し幽門側胃切除は僅か 23 例と、胃切除のハードルが如何に高かったかをアンケートは物語っている。この結果をみるにつけ、20 年余の内視鏡外科の急速な普及には改めて驚愕するものである。

さて、此処まで普及した内視鏡外科と本誌の将来を考えてみよう。既に英文誌が発刊され年々投稿数も増え続け、今や IF 獲得も近いと目されている。一方、会員間の連絡は Web で、話題提供はニュースレターが担っている。即ち、和文雑誌の意義そのものが今や問われ始めていると考えざるを得ない。ましてや編集作業や雑誌発行は、学会にとって金銭的負担が極めて大きい。委員が 2 カ月に一度顔を突き合わせて議論し、苦笑しつつも丁寧に変な日本語を校正する牧歌的なムードの編集委員会が個人的には大好きである。とはいえ科学論文を自国語で書く能力を身に付けることは大切であるが、日本語の教育は編集委員の仕事ではない。学会抄録や発表などが次第に英語化されていく中、和文誌の JSES も位置付けが問われている。まずは経費削減を目指して、編集会議をテレビ会議に置き換え、雑誌を Web 化することから始めていくべきであろう。

いよいよ種々のロボット支援手術の保険収載が決まり、内視鏡外科がまた新しい時代に突入した感がある。教育法や基本手技さらに適応など、内視鏡外科を取り巻く環境が大きく変わるに違いない。この時代に呼応して新時代を先導するためには、学会を支える本誌も岐路に立たされているのである。

(渡邊昌彦)

## 日本内視鏡外科学会雑誌

(第 23 巻 第 2 号) 2018 年 3 月 15 日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

(1 部) 定価: 本体 2,800 円 + 税 \* 会員には毎号送付されます。

2018 年 年間購読料: 冊子版 16,380 円 + 税、電子版 (個人) 16,380 円 + 税、冊子 + 電子版 (個人) 19,380 円 + 税 (配送料: 医学書院負担) \* 会員には冊子版が毎号送付され、学会ホームページから電子版が閲覧できます。

編集・発行: 日本内視鏡外科学会 (代表: 渡邊昌彦)

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 1-4-2 大同生命霞が関ビル

日本コンベンションサービス株式会社内

☎ 03-3503-5917 Fax 03-3508-1257 E-mail: info-jses @ convention.co.jp (担当: 池田, 小倉)

<http://www.jses.or.jp>

Published by Japan Society for Endoscopic Surgery, 1-4-2 Kasumigaseki, Chiyodaku

Tokyo, 100-0013, Japan ©2018, Printed in Japan

発 売: 株医学書院 (代表: 金原 俊) (本誌担当: 水野, 安部) <http://www.igaku-shoin.co.jp/><http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/jses/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23 (振替口座 00170-9-96693 番)

本誌編集室直通 ☎ 03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802 / E-mail: jses @ igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659 (Fax 03-3815-7804)

印刷所 横山印刷(株) ☎ 03-3622-6161 (Fax 03-3625-1591)

広告申込所 株文京メディカル ☎ 03-3817-8036 (Fax 03-3817-8044)

- ・本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・貸与権・公衆送信権 (送信可能化権を含む) は日本内視鏡外科学会が保有します。
- ・JCOPY (株) 出版者著作権管理機構 委託出版物) 本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、(株) 出版者著作権管理機構 (電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。

●原著

胸腔鏡下食道切除術における術前腹臥位シミュレーションの効果の

検討 .....原 健太郎・他 長崎医療センター手術センター  
シニアレジデントに対する腹腔鏡下結腸切除術のトレーニング

プログラム .....堀江久永・他 自治医科大学消化器・一般外科  
アセトミノフェンを用いた腹腔鏡下大腸切除術の術後疼痛管理の

有効性の検討 .....中川祐輔・他 栃木県立がんセンター大腸骨盤外科  
腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術による両側修復症例の手術成績 .....早川俊輔・他 刈谷豊田総合病院外科

●症例報告

腹腔鏡下にて整復しえた先進部に腫瘍性病変を認めない胃十二指腸重積の 1 例 .....比嘉 聡・他 沖縄協同病院外科  
上腰ヘルニアを腹腔鏡下に修復した 1 例 .....伊藤 直・他 トヨタ記念病院消化器外科  
上腰ヘルニアと鼠径ヘルニアを腹腔鏡下に同時修復した 1 例 .....中島啓吾・他 春日部中央総合病院外科  
薄筋筋皮弁充填術後の再発直腸膀胱瘻に対する経肛門的内視鏡下

マイクロサージェリー (TEM) による修復術 .....高橋昂大・他 メディカルトピア草加病院外科  
TAPP 法で腹腔鏡下に同時修復を行った外鼠径、大腿、膀胱嵌頓閉鎖孔ヘルニアを

合併した 1 例 .....目井孝典・他 九州病院外科  
術前診断し腹腔鏡手術が有用であった特発性小網捻転症の

1 例 .....久保 洋・他 佐賀県医療センター好生館消化器外科

●私の工夫

ヘルニア嚢牽引法 (hernia sac-traction method : HST 法) を用いた

腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術 .....大村泰之・他 岡山市立市民病院外科

他に症例報告が数編あります。但し誌面の都合により変更がございます。ご諒承ください。